

## 玉名市都市・地域総合交通戦略（玉名駅周辺）の策定

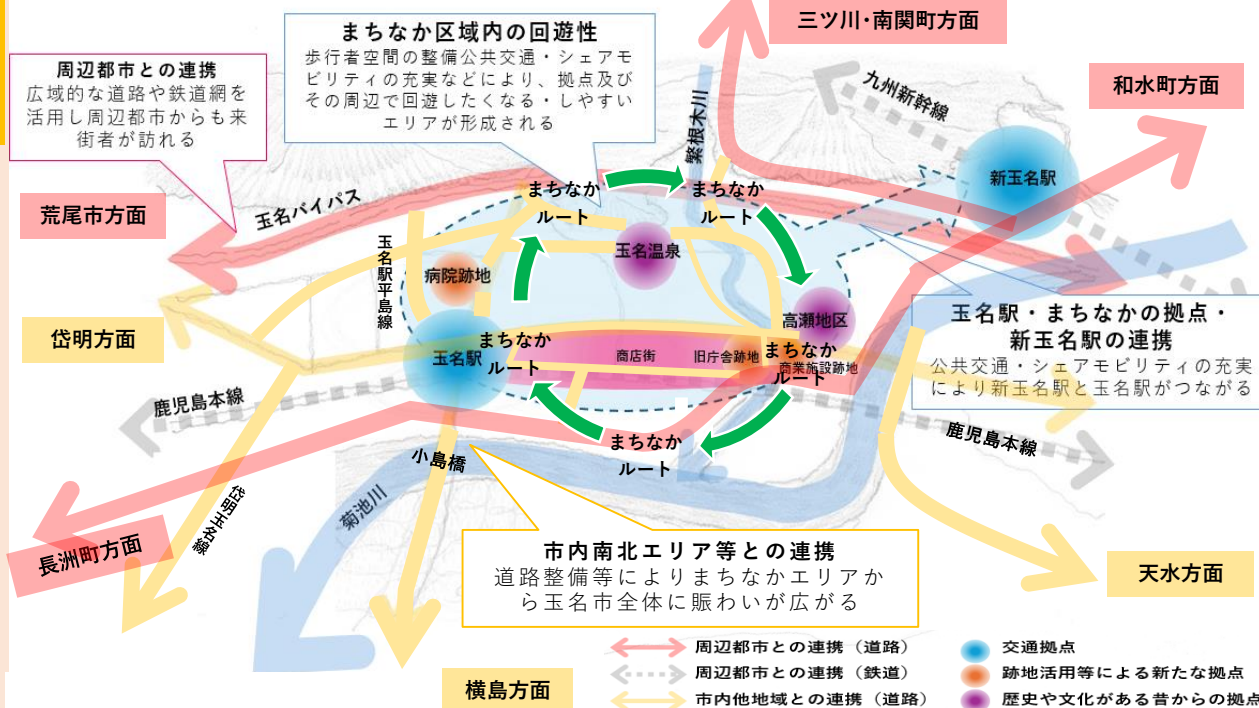
都市・地域交通戦略推進事業（所管：国土交通省、補助1/2 ※立地適正化計画策定のため）

本事業は、都市機能施設が集積する市中心部であり、在来線玉名駅は、1日当たり約5000人が利用する県北最大の重要な交通結節点となっている。しかし、駅のバリアフリー化が一部未着手、駅南北では道路網が分断しており、まちなかへの人や車の往来など利便性や回遊性において不十分である。このため「コンパクト・プラス・ネットワーク」をテーマに持続可能なまちづくりを実現するため市中心部の長期的な戦略目標を定める「玉名市都市・地域総合交通戦略」を策定する。

## まちなか全体の将来像

## 玉名市まちなかランドデザイナー まちなか未来図(素案)より抜粋

それぞれの取組やエリアの魅力がつながることで、まちなか全体がわくわくする未来をつくります。



## ※コンパクト・プラス・ネットワークとは

人口減少・高齢化が進む中、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めること。

## 令和6年度の進捗状況

## (1) 骨格幹線道路の検討

- ①玉名駅の南北を接続する道路の平面交差の検討及び単独立体交差（アンダーパス1案・オーバーパス2案）の比較及び予備設計を実施する。現在、現地踏査・平面測量・道路予備設計の与条件協議が完了し、単独立体交差の比較及び予備設計業務を行っている状況である。  
委託番号：玉市都委第9号  
委託名：玉名駅付近鉄道立体交差に伴う比較検討業務委託  
工期：令和6年8月2日～令和7年2月28日まで  
委託料：24,420,000円  
受託者：J R九州コンサルタンツ(株)

## 令和7年度の計画

## (2) 関連調査の実施

- ①駅利用者調査の実施（北側・南側）
- ②駅利用者アンケート調査の実施
  - ・駅利用の目的、交通手段、発着地、利用頻度
  - ・駅利用者満足度（バスやタクシー、駐輪場、歩行者空間等）
  - ・駅前広場整備へのニーズ等
- ③駐車場実態調査の実施（北側・南側）
  - ・玉名市まちなかランドデザインの対象範囲（A=約800ha程度）を対象に、現地調査を行い、駐車場の実態調査を実施する。

## (3) 駅周辺整備計画の検討

- ①駅前広場基本計画（北側（最終形、暫定形）、南側）
  - ・駅前広場の再整備に関する基本的な方針と配置案を検討する。配置にあたっては、交通処理が必要なバス・タクシー・一般車乗降・歩行者の交通量を「駅前広場計画指針」に基づき算定する。また、骨格幹線道路の整備時期を想定し、北側の駅前広場は道路整備前の暫定整備型と、整備後の2パターンの基本計画を作成する。
  - ・駅勢圏の設計を行い、目標年次の駅勢圏人口、将来乗降客数を予測し、将来乗降客数を設定、その予測に基づいて、駅前広場の必要施設数、面積など規模を算定する。（駅前広場、駐車場、駐輪場、駅前ロータリー、待合所、エレベーターなど）
  - ・駅前広場の配置計画案を3案作成し、概略比較検討を行い、課題抽出・整理を行い「基本計画」を策定する。※縮尺はS=1/500程度とする。  
※駅勢圏とは、鉄道駅を中心としてその駅を利用すると期待される範囲のことである。鉄道の旅客需要を予測する手法として導入された概念である。
- ②南北を繋ぐ自由通路等の検討(鉄道の上空を跨ぐ通路・橋上駅など)  
自由通路単独案、駅舎改築を伴う自由通路案（地平駅、橋上駅、2階建て駅舎案等）を複数案選定し、利便性、施工性、経済性等に着目して比較を行い、選定案について概算事業費の算出を行う。
- ③回遊性向上整備計画の検討 ※別途、回遊ルートを社会実験で調査
  - ・まちなかの将来像の実現に向けた施策やそのロードマップを設定、今後のまちなかにおける道路が担う役割を整理し、回遊ルートの設定を行う。
  - ・車の利用者が歩行系回遊ルート、ebikeや自転車等による中距離系回遊ルート、バスによる回遊ルートへ乗り換えるための駐車拠点の考え方と整備内容を検討する。

## (4) とりまとめ報告書作成

- ①令和6年度から令和7年度業務内容を合せて報告書を取りまとめる。

# 玉名市都市・地域総合交通戦略（玉名駅周辺）の策定

## 都市・地域交通戦略推進事業（所管：国土交通省、補助1/2 ※立地適正化計画策定のため）

### （総合交通戦略の目的）

総合交通戦略では、社会経済情勢の変化や集約型都市構造への再編に向けたまちづくりの取組として、まちの将来都市像を明らかにし、必要な都市交通、まちづくり施策を定め、多様な分野の関係施策間の連携を一層強化すると共に、地方公共団体、交通事業者、警察、市民等の関係者による一致団結した取組が総合的に展開される、いわば「総力戦」が求められる。

また、実施にあたっては、進捗や効果について管理・評価しながら、必要に応じて戦略を見直し、目的の達成に向けて継続的に施策を展開していくことが重要である。

このことから、関係者間の連携と役割分担による推進体制（協議会）によって、計画の策定や実施を行う体制を構築することを基本としており、本市では、まちなか未来プロジェクトを推進する全体構想や必要となる組織体制が条件を満たす「玉名市まちなか未来デザイン協議会」に、その検討・承認機関として位置づけ、交通戦略の実施の監理、評価、見直しなど行い推進する。

### ○概要

本事業は、都市機能施設が集積する市中心市街地にあり、在来線玉名駅は、1日当たり約5000人が利用する県北最大の重要な交通結節点となっている。しかし、駅のバリアフリー化が一部未着手、駅南北では道路網が分断しており、人や車の往来など利便性や回遊性において不十分である。

このため「コンパクト・プラス・ネットワーク」をテーマに持続可能なまちづくりを実現するため、中心市街地の長期的な戦略目標を定める「玉名市都市・地域総合交通戦略」を策定するものである。

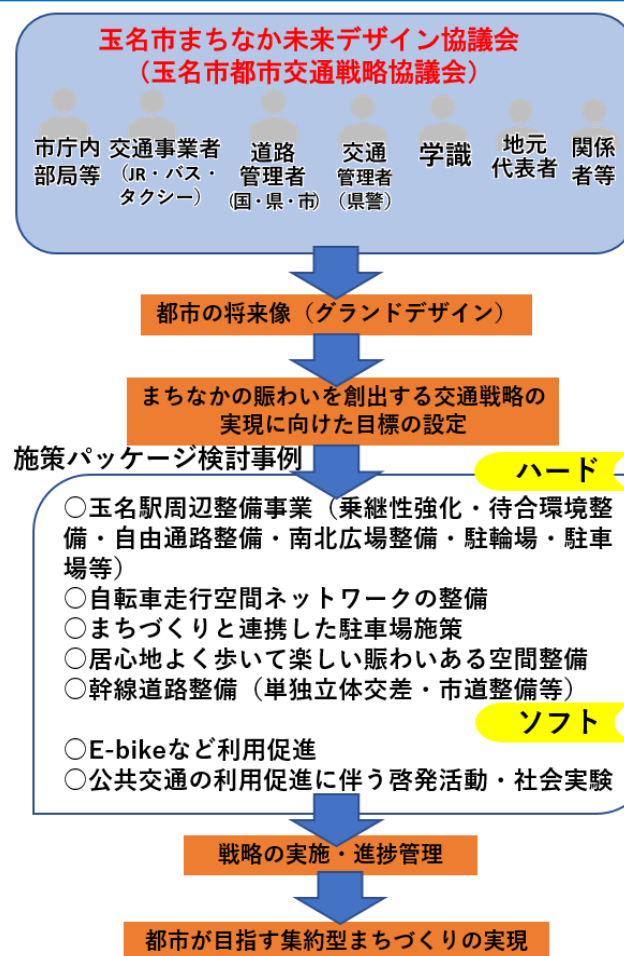
### ○事業期間：令和6年度～令和7年度

#### ・R6年度

玉名駅の南北を接続する道路の平面交差及び単独立体交差の比較検討及び予備設計（4案：平面1案・アンダーパス1案・オーバーパス2案）の検討

#### ・R7年度予定

駅利用者の実態調査、アンケート調査、玉名駅周辺整備に対する施設（道路・公共交通・南北広場・自由通路等）の機能強化や必要性などを概略の検討を行い、R6年度に策定した「まちなかの全体構想（グランドデザイン）」に即した公共交通とまちなかのまちづくりを連携させ、魅力的な都市空間を創出していく長期的な戦略を計画する。



※コンパクト・プラス・ネットワークとは  
人口減少・高齢化が進む中、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めること。



# 都市・地域交通戦略推進事業

・交付金〔社会資本整備総合交付金  
防災・安全交付金〕  
・補助金

資料4

目的：人口減少・少子高齢化の対応や集約型都市構造への再編に向けた、多様な交通モードの連携による持続可能なコンパクトシティ、スマートシティ等の形成に向けて、民間の資金やノウハウを活かし、都市機能の集約を含めた都市再生や地域公共交通網の再構築、中心市街地の活性化を推進するとともに、子育てしやすく高齢者の暮らしやすいまちづくりを推進する。

○徒歩、自転車、自動車、公共交通など多様なモードの連携が図られた、自由通路、地下街、駐車場等の公共的空間や公共交通などからなる都市の交通システムを明確な政策目的の下、都市・地域総合交通戦略等に基づき、パッケージ施策として総合的に支援

○補助対象者 ・交付金 ～ 地方公共団体※1

・補助金 ～ 法定協議会※2、都市再生推進法人、認定地域来訪者等利便増進活動実施団体、独立行政法人都市再生機構

※1 交付金については、地方公共団体からの補助金を受けて、民間事業者等（独立行政法人都市再生機構や特定非営利活動法人等を含む）も事業実施可能

※2 整備計画の作成に関する事業については、法定化を見据えた任意協議会も対象

○補助率：1/3、1/2（立地適正化計画に位置付けられた事業、滞在快適性等向上区域へのアクセス等に寄与する都市交通施設整備に係る事業、地区交通戦略に位置付けられた滞在快適性等向上区域等で行われる事業、脱炭素先行地域において実施する事業）



路面電車・バス・鉄道等の公共交通の施設



自由通路



ペDESTリアンデッキ



駅前広場

交通結節点整備



シェアサイクル設備



自転車駐車場



駅舎の地域拠点施設への改修・減築



公共交通施設と一体的に整備する再生可能エネルギー施設等



荷捌き駐車場

P&R用駐車施設

駐車場



社会実験

交通まちづくり活動の推進



バリアフリー交通施設



情報化基盤施設の整備

デジタルの活用に係る社会実験

## 事業費は最大47億円】駅周辺整備で基本計画案/飯塚市 (R4)2022-02-03

福岡県飯塚市は、飯塚駅周辺地区整備基本計画の素案をまとめた。JR飯塚駅を中心とした菰田・堀池地区の163haを対象に、駅東西を結ぶ自由通路や東西駅前広場、アクセス道路、公園などの整備を計画する。概算事業費は最大47億円

素案によると、道路や公園、駅前広場整備事業などを展開し、都市機能の充実と交通結節機能の強化による市街地のコンパクト化、駅周辺の利便性や回遊性の向上、駅東西の一体整備によるにぎわい創出を図る。

道路事業は、駅周辺の交通混雑解消のための西町天道線の交差点改良、歩道の新設、駅北側の桜ヶ丘踏切の改良などを進める。

公園事業では、菰田西公園1300㎡を改修し、菰田堀池公園（仮称）2800㎡を新設する。

駅前広場整備事業では、自由通路・駅舎、東西駅前広場などの整備を計画する。

自由通路は、駅舎の建て替えに合わせた一体整備を想定。

駅舎は、「2階駅」と「両側改札」の2タイプ、規模は現状の3分の1となる100-200㎡が望ましいとした。景観やコストなどを引き続き検証し、JR九州と最終案を決める。

駅前広場の面積は、西口が5857㎡、東口が854㎡とした。西口駅前の炭都ビル跡地1399㎡は、民活用地として活用を検討する。

事業費の内訳は、旧卸売市場周辺道路5億-6億円、西町天道線1億-1億5000万円、桜ヶ丘踏切5000万-1億円、菰田堀池公園（仮称）1億-1億5000万円、菰田西公園5000万-1億円、駅前広場（駅舎・自由通路を含む）28億-36億円。旧卸売市場周辺道路と西町天道線、菰田堀池公園（仮称）は22年度の着工、このほかは24年度の着工を予定している。

国土交通省の「都市構造再編集集中支援事業交付金」を活用する。飯塚駅周辺地区は22年度の新規地区の指定を受けており、交付金額は約20億円を見込む。

## 2024.06.01 広報紙 福岡県飯塚市

飯塚市は、中心拠点の一つである菰田・堀池地区のまちづくりを進めるため、令和4年3月に「飯塚駅周辺地区整備基本計画」を策定、各種整備を行っています。

このたび、飯塚駅舎・自由通路及び飯塚駅東西駅前広場の再整備デザインが決定、令和8年度中の供用開始に向け、工事を進めていきます。

### ■再整備によって「飯塚駅」はどう変わるの？

▽今後の再整備の内容

- ・従来の西側(西口)だけでなく、東側(東口)にも駅前広場を創設します。
- ・西側には駐輪場・駐車場・公衆用トイレ、東側には駐輪場を設けます。
- ・線路を跨ぎ東西駅前広場を結ぶ、エレベーターを備えた自由通路を設けます。
- ・旧菰田保育所敷地を活用し、菰田西公園の改修整備を行います。
- ・交通環境改善のため城ヶ崎踏切や桜ヶ丘踏切の改良を行います。

お問合せ：都市計画課 飯塚駅周辺整備推進室

【電話】0948-96-8477

飯塚市の人口124,175人

世帯数64,204世帯



## 5



